

やぶにらみレコード考

YABUNIRAMI RECORD KOU

No.11 偽名の楽しみ(II)

— 10年落ちの偽名、ロマノ・ルバート —

前回から随分間が空いてしまいましたが、もう一つ前代未聞の偽名盤の例をご紹介しますましょう。

LP 期のオランダを代表するレーベル、Philips にロマノ・ルバートというイタリア風の名前を持ったヴァイオリニストによる小品集が2枚あります。しかし、このルバートなる人物、どの演奏家事典に当たってみても、このような演奏家の名前を見つけることはできません。

それならば、きっとその辺をブラついて音大生を引っ張ってきて録音し、適当な名前で発売したのかと勘繰りたくもなるのですが、サロン風の味わいのある実に甘美なその演奏は、とても学生には弾けるようなものではないのです。

それにまた、Philips というレーベルは立派にメジャーの一角であり、およそ偽名を使ってレコードを発売するような会社ではないのです。

普通であれば、誰かは分からないけれどもなかなか良いレコードがある、で終わってしまうようなこの話ですが、後々ともない形での謎解きが待っています。

Philips 盤が発売された数年後、今度は、オランダ HMV から再びルバートのレコー

ドが発売されました。しかも、今度のレコード・ジャケットにはカイゼル髭をたくわえた謎の演奏家、ルバートの写真が大写しに印刷されていたのです。

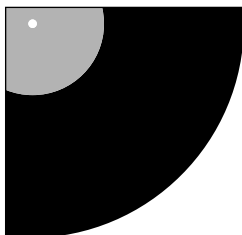
なるほど、ルバートはこのような顔だったのか、と納得しながら、経歴でも書かれていないのかとジャケットの裏面を見ると、そこには髭をたくわえたルバートの横顔に向かい合って、頭の禿げ上がった人物の横顔が写された写真が目に入ります。

しかも、よくよく見てみると、その頭の禿げ上がった人物は、オランダの名ヴァイオリニスト、ナッポ・デ・クラインなのです。そして、さらに仔細にその写真を見ていくと、程なくしてルバートとおぼしきカイゼル髭の人物は、実はカツラと付け髭で変装をしたクラインであることに気付くのです。

世に偽名盤は数あれど、カツラに付け髭までつけて変装している偽名盤はこのルバートくらいのものではないのでしょうか。

それにしても、なぜクラインはこのような偽名を使ったのでしょうか。単なる悪ふざけなのか、二重人格なのか。あるいは、峻厳そうな風貌から察するに、同僚や弟子の手前、自分の名前であるような甘美な演奏を発表するわけにはいかなかったのかも知れません。

いずれにしても、謎掛けから何年も後に、しかも、よくよく気をつけて見ないと見落としてしまうような方法で落ちをつけるというのは実に諧謔に溢れた方法ではないでしょうか。(続く) (K)



当店では、主にクラシックのLPレコード、SPレコードとクラシック音楽に関する輸入古書、国内古書を扱っています。

レコードは、50年代から60年代初期にプレスされたモノラル期のLP、および、器楽曲を含めた室内楽曲と歌曲のレコードを中心に品揃えしております。

また、探求レコード、探求書も出来る限り探すお手伝いをさせていただきたいと考えてお

101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町ビル1F
PHONE/FAX 03-3294-6077 OPEN 13:00~20:00 日祝休
info@classicus.jp www.classicus.jp

CLASSICUS

antique records

33 & 78 rpm

antique books